

米づくり情報 第8号

令和4年8月19日

平坦部(佐賀県農業試験研究センター)

本年産水稻の生育状況(8月19日)

移植日	項目 品種	年次	草丈	茎数	葉齢	葉色	概況 (平年と比較して)
			cm	本/m ²	L	SPAD	
6月17日	夢しずく	本年	出穂期:8月15日				[気象] 8月12~8月18日まで ◆平均気温…平年より0.4℃低い ◆日照時間…短い(平年比52%) ◆降水量…多い(平年比619%) [生育] ◆草丈 「ヒノヒカリ」でやや高く、「さがびより」「ヒヨクモチ」で高い。 ◆茎数 「ヒノヒカリ」「さがびより」では少なく、「ヒヨクモチ」では多い。 ◆葉齢 「夢しずく」の主稈葉数は平年よりやや多かった(主稈葉数:本年13.8、平年13.3)、葉耳間長は「ヒノヒカリ」で+5.0cm、「さがびより」で-6.5cmとなっている。「ヒヨクモチ」の葉齢はやや遅れている。 ◆葉色 「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」では平年並み、「さがびより」では濃い。 ◆幼穂長 「ヒヨクモチ」8/19時点 3.4mm
		平年	出穂期:8月17日				
		平年比(差)	2日早い				
6月20日	ヒノヒカリ	本年	95.9	386	14.2	32.8	
		平年	91.6	453	14.2	33.0	
		平年比(差)	105	85	±0	-0.2	
6月20日	さがびより	本年	92.2	398	14.6	38.7	
		平年	84.5	453	14.4	35.4	
		平年比(差)	109	88	+0.2	+3.3	
6月20日	ヒヨクモチ	本年	84.2	616	14.4	36.8	
		平年	74.8	544	14.7	35.8	
		平年比(差)	113	113	-0.3	+1.0	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水管理は、穂肥施用時の湛水管理を除き、引き続き間断灌水を行う。 ○ トビイロウンカ、いもち病、紋枯れ病の発生に注意し、的確な防除を行う。 ○ 「ヒヨクモチ」で穂肥施用が済んでいない所は早急に施用する。 						

注1)「夢しずく」、「ヒノヒカリ」は、6月17日移植の稚苗(播種期5/23、播種量 湿籾 180g/箱)

「さがびより」、「ヒヨクモチ」は、6月20日移植の稚苗(播種期5/26 播種量 湿籾 180g/箱)

2)栽植密度:「夢しずく」は、条間30cm×株間17cm, 19.6株/m²(65株/坪)

「さがびより」は、条間30cm×株間20cm, 16.7株/m²(55株/坪)

「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は、条間30cm×株間15cm, 22.2株/m²(73株/坪)

3)栽培管理:施肥法は県基準に準じ、防除他はセンターの慣行による。

4)概況欄の【草丈】、【茎数】の平年値との比較については、以下のように定義している。

低い(少ない):94以下、やや低い(やや少ない):95~98、平年並み:99~101、

やや高い(やや多い):102~105、高い(多い):106以上。

5)平年値は、収量について過去の全試験年次の標準偏差(σ)を算出し、±1σの外側にある年次を除く年次を対象にした、各項目の単純平均値。

【窒素の時期別施用量(N kg/10a)】

品 種	基 肥	中 追	穂肥 I	穂肥 II	実 肥
夢しずく	3.0	0.0	2.0(7/29)	—	—
ヒノヒカリ	4.0	2.0(7/8)	3.0(8/5)	—	—
さがびより	5.0	0.0	2.0(8/12)	—	—
ヒヨクモチ	4.0	3.0(7/13)	4.0(8/18)	1.5	1.5

※括弧内の日付は農試作況圃場における施用日

【農試作況圃場における幼穂形成始期と出穂期】

品 種	幼穂形成期(1mm)		出穂期	
	本年(平年差)	平年	本年(平年差)	平年
夢しずく	7/27(-1)	7/28	8/15(-2)	8/17
ヒノヒカリ	8/5(±0)	8/5	未	8/27
さがびより	8/7(-2)	8/9	未	9/1
ヒヨクモチ	8/14(±0)	8/14	未	9/6

令和4年産 稲作期間気象図

アメダス観測値(佐賀)

農業試験研究センター
作物栽培研究担当

